報道関係者各位

＜ニュースレター＞

日本空糸株式会社

2026年9月吉日

高所・難所に挑む「点検・調査のプロフェッショナル」

9月は防災月間で「事後対応」から「予防保全」へ

～水害リスクに備える点検が、防災につながる～

9月は防災月間です。全国的に災害への備えを見直す時期ですが、気象庁の統計でも台風の接近数は例年9月が最も多く、また今年も秋雨前線や台風の影響を受けやすい年として、各気象機関が大雨への注意を呼びかけています。まさに今が水害リスクの本番を迎えるタイミングです。

岩手県内でも、この季節は決して他人事ではありません。平成28年台風10号では岩泉町を中心に河川の氾濫が相次ぎ、大きな被害をもたらしました。また、弊社が公開レスキュー訓練の会場としても使用している旧祭畤大橋は、平成20年の岩手・宮城内陸地震により崩落し、インフラ構造物が自然の力の前でいかに脆弱であるかを、地域に強く印象づけました。橋梁・堤防・水門・ダムといった河川構造物は増水・流木・土砂の影響を受けやすく、見えないところで劣化が静かに進んでいるケースも少なくありません。

＜本件に関するお問い合わせ先＞

日本空糸株式会社　広報担当：湯浅

TEL：050-1743-1887／メールアドレス：pr@japansoraito.com

被害が出てからの対応では遅く、いま求められているのは「事後対応」から「予防保全」への転換です。そのための第一歩が、定期的な丁寧な点検・調査です。構造物の今の状態を正確に把握することが、水害への備えに直結します。

弊社は、ロープアクセス技術を活用したインフラ調査事業を主力としています。橋梁やダム、急傾斜地など、足場や重機の進入が困難な高所・難所に対し、近接目視や打音による調査を実施しています。ドローンでは確認が難しい細部の損傷・劣化を直接確認できることが、弊社の強みです。

足場や重機を必要としない無足場でのアクセスは東北地方ではまだ珍しく、建設現場の関係者から「こんなことができるのか」と言われることがあります。構造物の状態を正確なデータとして届け、管理者の判断を支えることが弊社の役割です。

今回のニュースレターでは、ダム余水路・サージタンク点検など、これまで弊社が手がけてきた点検・調査の取り組みをご紹介します。現場の工夫と安全管理への姿勢とともに、予防保全の現場をお伝えします。

日本空糸株式会社　代表取締役　伊藤徳光

ロープ高所作業特別教育インストラクター・道路橋点検士・木橋診断士

当社は、ロープアクセス技術を活用したインフラ調査事業および人材育成事業を行っています。主力事業であるインフラ調査事業では、橋梁やダム、急傾斜地など、足場や重機の進入が困難な高所・難所に対して、ロープアクセス技術を用いた近接目視や打音による調査を実施。ドローンでは確認が難しい細部の損傷や劣化を直接確認できることが強みです。

▼点検事例

①ダム余水路の漏水原因点検・調査

ダム水槽奥にある狭小空間にて、コンクリートの劣化状態を確認する点検・調査を実施しました。

当該箇所では、余水路の外部への漏水が確認されていたものの、その原因が特定できない状態でした。原因究明のため、ロープアクセスにより管路内部への侵入・点検調査を行いました。

＜本件に関するお問い合わせ先＞

日本空糸株式会社　広報担当：湯浅

TEL：050-1743-1887／メールアドレス：pr@japansoraito.com

対象となった管路は、高さ約2m、傾斜11度、延長約13mという狭隘な空間で、内外ともに掴まる箇所がほとんどない厳しい条件でした。安全確保のため2名体制を組み、点検・調査には1〜2日を要しました。

②サージタンク内部点検・調査

サージタンク内部にて、構造物の状態を確認する点検・調査を実施しました。当該箇所には垂直タラップが設置されているものの、タラップからでは対象箇所に近接しての確認ができないため、ロープアクセスにより内部への侵入・点検調査を行いました。対象となった空間は、深さ約20m、直径約10mという大規模な竪穴構造で、3名体制を組み、点検・調査には2日を要しました。

③水門の点検・調査

このほか、水門の水壁部分についても、ロープアクセスによる近接目視での点検・調査を行っています。

▼今後の展望

今後はより一層の地元貢献を目指し、地元企業との連携を進めてまいりたいと考えております。具体的には、工場やプラントにおいて経年劣化が進んだ設備のメンテナンス支援に取り組んでまいります。
天井設備やサイロ内部など、通常は直接確認することが難しい箇所についても、不具合のある箇所を直接観察できれば、修繕方針を固めやすくなり、より効果的な修繕計画の立案につながります。

▼会社概要

・会社名：日本空糸株式会社
・所在地：〒021-0902　岩手県一関市萩荘字谷起島北方194-13
・代表者：伊藤徳光
・事業内容：インフラ調査事業・人材育成事業
・設立：2015年
・資本金：105万円
・従業員数：5名
・URL：https://www.japansoraito.co.jp/

＜本件に関するお問い合わせ先＞
日本空糸株式会社　広報担当：湯浅
TEL：050-1743-1887／メールアドレス：pr@japansoraito.com